

平成30年度 学校関係者評価報告書

学校名：東海工業専門学校金山校

1 学校目標

- ・教職員の意識、行動の更なる活性化
- ・社会貢献のための新たな事業の検討
- ・国際化の取り組み
- ・広報力の強化
- ・経営の効率化
- ・目標、プロセスの見える化の推進

学校目標に対する評価・意見

- ・建設業の人気を上げるために最善の校内、教職員活性化努力が感じられる。
- ・建設企業の活性のため、有力人材の補強に心掛けている。
- ・基礎学力向上のドリルの実施は素晴らしい。また、漢字の読み書きの指導も良いと思う。
- ・基本的な建築土木の需要にプラス、具体的な物件での授業を増やして欲しい。
- ・女子学生の増加を意識した活動を強化して欲しい。
- ・中高生のアピールは生徒数だけでなく如何に基礎学力のある生徒を確保するかも目標として考える。
- ・早期退職問題の傾向の洗い出しと、建設業独自の職業を見据えた在学中の対策強化を盛り込む。
- ・5年10年15年20年後～将来の年次学校規模と経営等のシュミレーション構築必要なのでは。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
(1) 教育理念・目標	3.6	3.2	3.2
(2) 学校運営	3.8	3.6	3.4
(3) 教育活動	4.0	3.8	3.8
(4) 学修成果	3.4	3.4	3.4
(5) 学生支援	3.8	3.4	3.4
(6) 教育環境	3.4	3.4	3.4
(7) 学生の受入れ募集	3.2	3.2	3.0
(8) 財務	3.8	3.8	3.8
(9) 法令等の遵守	3.8	3.8	3.8
(10) 社会貢献・地域貢献	3.2	3.0	3.0
(11) 国際交流	2.8	2.8	2.6

3 今後の改善意見

- ・建設企業の就職について入社しても早期退職される現象をよく耳にする。就職内定してから数年の生徒たちの情報確認の把握が必要。
- ・現場経験での具体的な授業の実施を強化し、学校での知識の活用を教えてもらいたい。
- ・女性活躍を紹介して女子学生の募集を強化して欲しい。
- ・如何に生徒や世の中から必要とされるかが今後の学校運営の基本と感じる。「社会にどのような人材を輩出し貢献するのか」を明確にする。
- ・基本戦略徹底として女子力、SNS発信とあるが、ただ学校行事を発信するだけでなく、今後の国家試験情報や結果をPRする。
- ・学校運営における情報システム化に努力すること。
- ・教育活動に置ける教員のスキルアップの仕組みを構築する。
- ・留学生の日本語向上の具体的方策。

4 今後の具体的な改善方策

- ・就職先への企業訪問の実施により勤務状況の把握に努めているが、その数は限られている。活発に活動している校友会各支部と連携し卒業生の動向を把握し活躍を評価したい。また、会社訪問において、卒業生の活躍および評価に対するチェックシートなどを準備する必要がある。
- ・教育設計図の構築により解消する。また、学園の取り組みである学科ロードマップを作成するため早急に委員会を立ち上げ、「学科ロードマップ」作成し「教育設計図」と共有させて構築させる必要がある。
- ・校外研修（特に職業教育）が圧倒的に少なく、カリキュラムの見直しおよび校外研修ができる体制を確立しなければならない。
- ・インターンシップにおいては、土木系学生はカリキュラムの一環として取り入れられているが、建築系学生においては希望者のみ実施している。建築系学生のインターンシップにおいては、担任・県人担当者および就職指導室と連携して早期就職活動の意識を学生に植え付ける必要がある。
- ・女子高校生が建設業界に興味を持つために「けんせつ小町」をアピールし、パンフレットにて女性の活躍を紹介する。また、オープンキャンパスのスペシャルイベントとして、卒業生（女性）の協力でガールズコースを企画する。女性が建設業界で活躍している事例を女子学生に体験談していただく。
- ・専門教育機関として求められる3つのポリシー「AP, CP, DP」を明確にし、実現化に向けてガイドラインの策定が必要とする。
- ・教育設計図を早期に検討して作成する。
- ・教育課程編成委員会等にて建設業界のニーズを継続的に確認し、シラバスに反映させ各学科の目標を見直し、PDCAを展開させていく。
- ・資格講習の様子を始め、国家試験情報の結果をホームページやSNSに公開する。
- ・情報システムに精通した人材の確保
- ・情報システムによる業務の合理化、効率化が遅れている。将来的に学生数が減少することで人件費削減を余儀なくされるため、今のうちに業務の効率化（教務書類や奨学金関連事務のシステム管理・稟議書類のペーパーレス化）を図ることが急務である。
- ・教員の教育力の向上においては、各種講習会や現場見学会に参加しやすい環境づくり、また夏期および冬期研修日の有効活用を促す。また、年度始めに教員に付与すべきスキルを洗い出し、積極的に研修を実施する。特にBIM講習を急ぎたい。
- ・経験不足の教員に対する就職支援研修（履歴書の書き方、面接指導の仕方）を実施する。また、新入教職員に対し、学生のインターンシップに同行して現状の把握と企業のニーズを学ぶ機会を設ける。
- ・学園挙げての日本語力向上（日本語検定試験対策講座の複数回又は継続的な実施）の取り組みが必要である。